

モニタリング調査事項(平成19年度実施計画など)

	調査項目	調査頻度	緊急対策地区					重点監視地区					周辺部								
			H19(2007)	H20(2008)	H21(2009)	H22(2010)	H23(2011)	H19(2007)	H20(2008)	H21(2009)	H22(2010)	H23(2011)	H19(2007)	H20(2008)	H21(2009)	H22(2010)	H23(2011)				
1. 生息状況調査	生息密度調査	①算粒法	緊急対策地区において、植生タイプ別対照区、平成16年度に設置した林床植生調査地点、シカ保護管理調査地点の1kmメッシュ内で、10コドラート(1m×1m)を設定し、算粒数をカウントする。生息密度の算出は、池田(2005)の計算式「FURNRYUプログラム相同」を用いて生息密度の算出を行った。		緊急対策地区：毎年実施。 重点監視地区：毎年実施。 周辺地区：5年間に1回実施。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		②ルートセンサス	東大台に2ルート、西大台に1ルートの3ルートの調査ルートにおいて、秋期の夕方から夜間にかけて2日間、スポットライトセンサス法を用いて調査を実施する。設定されたコースを一定速度(3~5分/100m)で歩き、コース両側のライトが届く範囲内で確認できた個体数を記録する。		緊急対策地区：毎年実施。 重点監視地区：毎年実施。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
		③区画法	調査地域を複数の小区画に区分し、各分画区画に調査器具を配置し、一斉に調査を行い個体数を記録する。分画区画は1時間当たり10ha前後となるように配置し、調査は2時間とする。		緊急対策地区：5年間に1回実施。					○											
	行動域調査	GPSテレメトリー		調査は毎年実施		○	○	○	○	○	←									→	
	捕獲個体調査	・外郭計測値 ・歯(年齢査定) ・胃内容(食性) ・大腿骨・腎臓(栄養状態) ・組織(遺伝的多様性)		調査は毎年実施		○	○	○	○	○	△	△	△	△	△						
3. 植生への影響調査	上層木調査	調査区の上層木の樹種名、被度、群集高等を調査する。		緊急対策地区/重点監視地区/周辺地区：5年間に1回実施。					○										○		
	下層植生調査	小方形区内(2m×2m)を設定し、小方形区内の高さ1.3m未満の林床植物(雑草・木立植物)について、種名、高さ(種別最高値)、被度(%)および食度の有無とその種(シカ・ウサギ・その他)を記録する。		緊急対策地区/重点監視地区：毎年実施。 周辺地区：1回/5年実施。 小方形区は1地点につき5個設定。		○	○	○	○	○	○	○	○	○					○		
4. 食害状況調査	剥皮状況調査	シカによる樹木の剥皮状況の経年変化を把握するため、コドラート20ヶ所において毎年調査を行う。幹被害の程度は6段階で各樹木の被害を評価し、百分率でコドラート毎の平均を示す。また、下層植物の高さ(10本平均)を調査する。		調査対象地区は緊急対策地区。 調査は結果がでたため一時中断(今後の調査は後継会で必要があれば検討)。																	
5. 自然再生推進計画調査による植生調査	上層木調査	6つの植生タイプ別ごとの調査地点において、毎年調査、剥皮、枯死を調査する。		調査は3年間に1回実施。			●		●												
	下層植生調査	6つの植生タイプ別ごとの調査地点において、種別樹種、種別最大高、実生、ササ生育状況等を調査する。		調査は毎年実施。		●	●	●	●	●											